

子ども未来プラン 環境づくりテーマ

基づいていることから、今後
も子どもたちのための活動を
充実させたいと感じました。
(常葉中学校区・山本 光)

横須賀市青少年育成推進員
連絡協議会の総会が4月9日
(日)、市立青少年会館3階ホ
ールで開かれました。

事業報告や決算などに続き
講演会がありました。

横須賀市民生局福祉こども
部子育て支援課計画担当の澤
村亮氏による「横須賀子ども
未来プランについて」のテー
マでお話をいただきました。

その子ども未来プランには
7つの大柱があり、我々推進
員が関わ

よこすか育成通信
35号
2023年9月30日発行
題字：上地 克明 市長

るテーマ
は大柱4
の「子ど
もと青少
年が心身
ともに健
やかに成
長するた
めの環境
づくり」
です。
我々の
活動は市
の施策に

子どもの健やかな成長を地域で育むまち横須賀		子どもの健やかな成長を地域で育むまち横須賀	
大柱1 子育て支援の推進	大柱2 子育てしやすい地域づくり	大柱3 子ども教育の充実と生涯学習の推進	大柱4 社会と連携の推進(ワーク・ライフ・バランス)の推進
<p>大柱1 子育て支援の推進</p> <p>中柱1 育児・保育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 保育の拡充 2. 子育て支援の充実 3. 子育て支援の推進 <p>中柱2 子育てしやすい地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援の推進 2. 子育て支援の推進 <p>中柱3 子育てしやすい地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援の推進 2. 子育て支援の推進 	<p>大柱2 子育てしやすい地域づくり</p> <p>中柱1 子育てしやすい地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援の推進 2. 子育て支援の推進 <p>中柱2 子育てしやすい地域づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 子育て支援の推進 2. 子育て支援の推進 	<p>大柱3 子ども教育の充実と生涯学習の推進</p> <p>中柱1 子どもの学びの場の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 子どもの学びの場の充実 2. 子どもの学びの場の充実 <p>中柱2 子ども教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 子ども教育の充実 2. 子ども教育の充実 <p>中柱3 子ども教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 子ども教育の充実 2. 子ども教育の充実 	<p>大柱4 社会と連携の推進(ワーク・ライフ・バランス)の推進</p> <p>中柱1 社会と連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 社会と連携の推進 2. 社会と連携の推進 <p>中柱2 社会と連携の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 社会と連携の推進 2. 社会と連携の推進



「子ども未来プランについて」7つの大柱
横須賀市公式サイト「第2期横須賀子ども未来プラン(令和2年度~令和6年度)」から抜粋

安全・安心な おいしい給食を中学生に

横須賀市学校給食センター視察研修会
6月23日(金) | 午前10時~11時45分 | 参加者19人

旧平作小学校跡地に建設さ
れ、新型コロナウイルス感
染禍中の令和3年9月開業の学校給食セ
ンター。その斬新なデザイ
ンの建物から、まず実際の
調理風景(会議室横の遮光カー
テンが上がり調理エリアを
ガラス越しに一望)を見学し
、施設紹介DVDを視聴。
その後、管理栄養士や食育担
当教諭から学校給食と食育の
歴史、現在の状況について、
資料を見ながら講義を受け
た。
現在、1日あたり5千食ず
つ2コース、計1万食を保温
性の高い二重食缶に入れ、
市立中学校全23校に専用ト
ラックで配送。また食物ア
レルギー対応食も提供。
生徒の食の確保(食の貧困
の改善)。「給食は学びの
場であり、地域と食に関心
を持つ」という新しい食育
の推進。子育て家庭の親
の負担軽減と少子化対策。
学校間格差の是正。地産地
消や地域の雇用促進。
センター内で徹底されて
いる最先端の食の安全と衛
生管理(ドライシステムやエ
アシャワー)、人・食材他
の効率的な動線計画、作
業区域の明確化など。



いただきます!

一方、課題は残食。減少し
つつあるが、資源化は進んで
いない。
どれも「目から鱗」の未来志
向で、楽しく学べた。
最後に、参加者のうち4人
が生徒と同じ可愛いエプロン
姿で盛り付けを体験した。生
徒と同じ当日用ニュー(さ
わらの西京焼きとはりはり漬
け)を試食。とにかくおい
しかった!
「試食を通して、学校給食
センターの取り組みを伝え
て欲しい」という司会者の
言葉が今も耳に残る。
(鴨居中学校区・濱口 幸治)



青少年支援育成のための
コミュニケーションワークショップ

関わりの可能性を拓く

横須賀三浦地域
青少年指導員活動研究会

5月20日(土)

横須賀三浦地域
県政総合センター五階

講師 川本 正秀 氏

信頼と安心の中で行うコミュニケーション・会話のキャッチボールにより、話し手は自分自身の考えを認識し、やる気や意欲が増し、自発的行動がとれるようになる。

それを実現するためのヒントとして「子どもの話を100%聴く」「相手を認める

ことばかけ」「相手に考えてもらう問いかけ」、などの話を聞きました。

その後、横須賀三浦地域の他の参加者とグループを作り、「聴き手役」「話し手役」に分かれ、実際に体験。

話し手役として話をしたとき、聴き手役の対応で「認めてもらった、もっと話したい」という気持ちになりました。本当です、なるんです！

青少年指導員としてだけでなく、普段の生活でのコミュニケーションの取り方にも参考になったセミナーでした。最近の自分を振り返ってみ



ると、上手にキャッチボールができていただろうか……と
思うことも。
みなさんはキャッチボール
できていますか？
(野比中学校区・佐藤 竜也)

非行防止キャンペーン

7月8日(土) 横須賀中央
駅Yデッキで、大津・不入斗・
常葉中学校区15人の育成推進
員によって「非行防止街頭キ
ャンペーン」が行われました。
しかし、コロナ余波、働き
方改革の影響で先生の引率が
難しく、今年も中学生の参加
はありませんでした。

今後中学生の参加は難し
いかもしれませんが、育成推
進員のおじさん、おばさんの
非行抑止を訴える活動が、地
域にとって良いきっかけにな
ればと思います。

推進員の皆さんには、これ
からも地域の活動とともに「非
行防止街頭キャンペーン」な
どの協議会活動にも、協力と
参加をお願いします。
(環境研究部会長・大倉俊明)

7月22日(土)汐入駅周辺で、
坂本中学校区10人の育成推進
員によって「非行防止街頭キ
ャンペーン」が行われました。16
時から17時という時間でした
が、まだ真昼のような日差し
が照り続く中、中学生が描い



たキャン
ペーンの
絵入りテ
ィッシュ
を手渡し
ました。
令和2
年以降コ
ロナ禍で

縮小状況が続いていましたが、
再開されて皆さんほっとして
いました。

感想をまとめると、コロナ
前と変わり中学生の参加がな
い、7、8月は熱中症との闘い、
スマホやイヤホンを使う人も
増え、キャンペーンの言葉が
届きにくくなっているなどが
ありました。

意見としてはポスターを持
って通行人に近づいたり、手
渡す方法を工夫する必要があ
るなどありました。今後の参
考になればと思います。
(不入斗中学校区・俣野光俊)

社会環境実態調査

7～9月実施

社会環境実態調査は、県青少年課から委託された事業で、青少年育成推進員連絡協議会の中にある4つの研究部会の一つである、環境研究部会が主体となって実施するものです。

この調査は、青少年の健全育成への影響が考えられる、各種営業等の実態や神奈川県青少年保護育成条例の遵守状況を把握するため、店舗（コンビニエンスストア、ドラッグストア、インターネットカフェ、カラオケボックス、書店等）の協力を得て行っています。

調査期間は、内閣府が主催する「青少年の非行・被害防止全国強調月間」に係る活動の一環として、毎年7月～9月に実施しています。

調査方法は、県青少年課から指定された店舗に育成推進員が訪問して、店内を視認し、県青少年課が作成した調査票（例えば、20歳未満または20歳

未満と思われる方に、たばこやお酒を販売していないか、20歳未満と思われる方に年齢確認を行っているか）に沿って、従業員等に簡単な聞き取りを行います。

記入した調査票は、各市町村から各地域県政総合センターへ提出し、取りまとめられ、県青少年課に提出されます。

調査結果は、子どもと青少年が、心身ともに健やかに成長するための環境をつくるための基礎資料として活用されます。

（追浜中学校区・木村 詔子）

働き方改革下の試み

育成推進員は、新年度の開始に合わせて、5～7月、各中学校区内の小中学校を訪問し、情報交換を行っています。大矢部中学校区では、この場で、働き方改革を意識して活動することを提案し、理解・協力を求めました。

具体的には、非行防止キャンペーンポスターと中学校対抗

七夕飾り



6月24日（土）午前10時から、岩戸町内会館で開催（各町内会子ども役員8人、その家族の子ども14人、町内会育成担当2人、推進員4人）。

コロナも緩和となり、町内行事も動き出した中で、久し

ぶりの実施となりました。

当日の開催時間が限られるため、短冊は事前に子どもたちに配布、七夕飾りの当日に持参してもらいました。竹、ぼんぼりその他飾りは推進員で準備し、大人と子どもがいっしょになり七夕飾りがはじまりました。短冊の中にはコロナで何かと感染に気を配っていたいただいた学校の先生がたに感謝の想いや願いごとが書いてありました。

ぼんぼりを広げたり、簡単な折り紙風の飾りを子どもたちに教えながら、七夕飾りの体験を味わってもらうことができました。作った七夕は、

400枚程度のコスト。

② 関一時間目の休み時間に、作者と作品が対応するよう「リスト（年組・氏名）記入↓リスト番号を作品に貼付↓リストと作品を写真撮影」という手順で受付。関年組・氏名を記載した包装で提出してくれており、前述の受付手順は不要。

③ 関夏休み一週間前から三者面談期間に入ること知らず未実施。関学校日程を十分把握する。①でチラシ全校配布にすれば不要。

（大矢部中学校区・小林 正和）



（岩戸中学校区 飯田 功）

小学校、中学校、養護学校に持っていき、飾っていただきました。



よこすか育成通信



横須賀市
青少年育成推進員
Webサイト

発行者：横須賀市青少年育成推進員連絡協議会

会長：織田 俊美

住所：〒238-0016 横須賀市深田台37番地(横須賀市立青少年会館内)

横須賀市役所民生局福祉子ども部子育て支援課 TEL.046-824-5377

パトロール

8月22日、役員会の終了後にパトロールを実施しました。こども家庭支援課、巡回指導員、子育て支援課から2人、推進員、総勢22人です。

コースは、平坂を下り千日通り、どぶ板通り、汐入駅。折り返して三笠通りを通過して中央駅まででした。夏休み最後の週で時間も遅かったからか、人通りもまばらでした。歩きながら巡回指導員に、



推進員のパトロールの時は、「気を付けて帰ってね」とか、スケートボードなどをしていたら「怪我しないようにね」ぐらいの声かけがいい、ということでした。

あとは、良心に任せるのだそうです。確かにその通りだと、感心しました。
(神明中学校区・岡田 安司)



シン・わんぱく 11月公開

わんぱくフェスティバルは昨年、万全のコロナ対策を練り3年ぶりの開催となりました。通常の4分の1の規模、飲食ができない中、新たにお祭り広場を企画し盛況に終わることができました。

10月以降の主な行事予定

- ◆ 10月7日(土) 青少年育成推進員研修会
講師・たかの てるこさん
—地球の広報・旅人・エッセイスト—
青少年会館3階ホール



- ◆ 10~11月 非行防止キャンペーン
市内7~8カ所
- ◆ 11月12日(日) わんぱくフェスティバル2023
10:00~14:30 神奈川県立保健福祉大学
- ◆ 12月9日(土) 中学校対抗ウォークラリー大会
長井中学校周辺コース
- ◆ 2024年2月10日(土) 活動体験発表会
青少年会館3階ホール

今年度は事務局体制が変わり、一からのスタートとなりました。新たなスタッフを加え、今まで関わってきた記憶をたどり、試行錯誤しながら県立保健福祉大学側との打ち合わせを重ねてきました。コロナ感染症も5類に移行し、大学側の協力も飲食も含め規模の制限なく、以前の形での開催が可能となりました。白バイの展示や福祉大学生の吹奏楽など、新たな企画や参加団体も加わります。
昨年発足したわんぱく特別委員会に加え、今年度は実行委員会を行う前に実行委員会事務局会議を増やし、計画から実行にい

ゆうやけこやけ

今年の夏は猛暑でしたね。子どもの通う小学校では、暑さでプールのお湯のように温まってしまう、プールの授業が中止になるようなことが度々ありました。「地球温暖化」が身に迫って感じられた夏だったように思います。
地球温暖化の最大の要因は、石油や石炭など化石燃料の燃焼によって排出される二酸化炭素だと考えられています。
もっと気温が高くなって、「2023年は、涼しい年だったよね」と言われる未来にならないように。ひとりひとりが、今できることを少しずつ実行して子どもたちに良い地球環境を残したいものです。
(鈴木 彩子)

たるまでの流れを複数の目で共有することを心掛けています。組織体制を変え内容にも変化を加えます。多くの方々のご協力をいただき、子どもたちが

思い出に残り、楽しめるフェスティバルにしていきたいと考えています。
(わんぱくフェスティバル 実行委員長・織田 俊美)

編 集 後 記

新型コロナウイルスの分類も5類に移りましたが、青少年育成活動は、今ひとつコロナ禍前の活気にはいたしません。青少年育成活動地域連絡会と学校関係者にもご協力いただき、子どもたちの健全な成長に貢献できるよう頑張っていきます。(K・B)